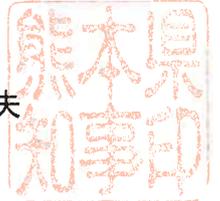


都計第391号の4
令和2年（2020年）12月14日

熊本県都市計画審議会会長 位寄 和久 様

熊本県知事 蒲島 郁夫



災害からの復旧、復興について（報告）

このことについて、別添のとおり貴審議会に報告します。

水災害対策とまちづくりの連携

「水災害対策とまちづくりの連携のあり方」検討会提言 (R2. 8. 31)

【令和2年7月豪雨による人吉市街地の被災】

- 市街地中心部の大部分が浸水した人吉市では、**年度内に「復興計画」を策定予定。**
- さらに、「復興計画」の内容を具体化する**「復興まちづくり計画」の検討に着手。**
- 復興まちづくりにおいては、**球磨川の治水対策の方向性と連動した都市計画事業等の実施が想定。**

人吉市の被災状況 (R2.10末現在)

- ・浸水区域 518ha
- ・全壊 885棟
- ・床上浸水 713棟
- ・半壊 1,412棟
- ・床下浸水 225棟



⑧中神町大柿



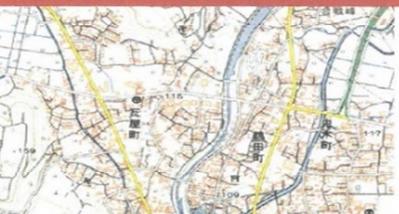
④大和一酒造元



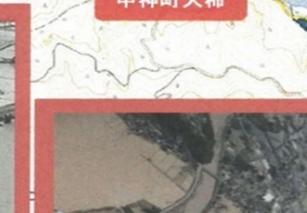
②青井阿蘇神社



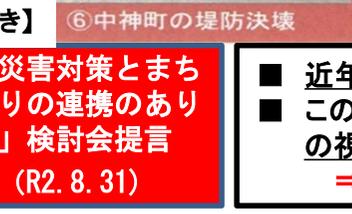
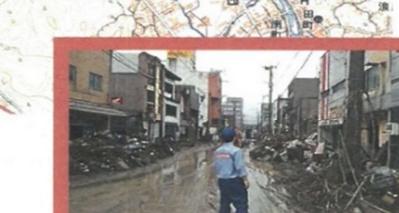
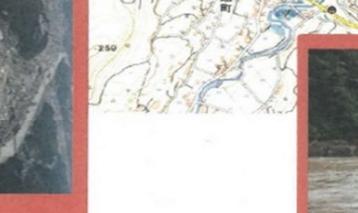
⑦球磨焼酎リサイクルセンター



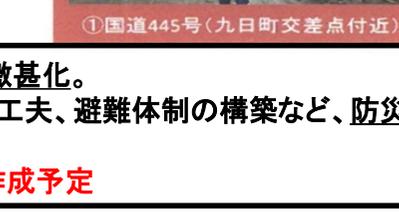
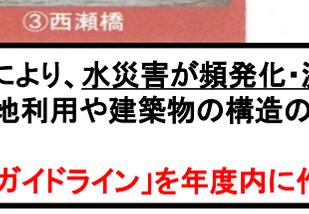
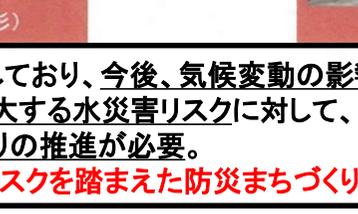
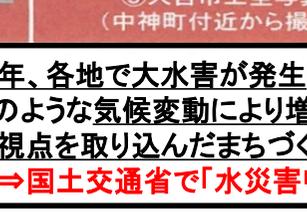
⑥中神町の堤防決壊



⑤人吉市上空写真
(中神町付近から撮影)



③西瀬橋



①国道445号(九日町交差点付近)

【国の動き】

「水災害対策とまちづくりの連携のあり方」検討会提言
(R2. 8. 31)

- 近年、各地で大水害が発生しており、今後、気候変動の影響により、水災害が頻発化・激甚化。
- このような気候変動により増大する水災害リスクに対して、土地利用や建築物の構造の工夫、避難体制の構築など、防災の視点を取り込んだまちづくりの推進が必要。
⇒国土交通省で「水災害リスクを踏まえた防災まちづくりのガイドライン」を年度内に作成予定

提言のポイント まちづくりにおける水災害リスクに応じた防災・減災対策の実施

ポイント1

- まちづくりの検討に必要な多段階的なハザード情報の整理
- ・洪水浸水想定、土砂災害危険区域等を地図上に重ねて表示

ポイント2

- 水災害ハザード情報に基づくリスク分析・評価によるまちづくりの方向性の検討
- ・水災害リスク(水害発生確率、暴露(人口・財産等)、脆弱性)

ポイント3

- まちづくりの方向性に対応した防災・減災対策の実施
- ・ハード、ソフト、土地利用等の複合施策による対策
- ・避難路、避難地、避難体制の確保、土地利用や建築の規制など

水災害対策と連携したまちづくりの施策の実施

避難路整備



内水対策
(雨水流出、貯留対策)



リスク情報の提示



避難に係る
自助・共助体制の確保



地区ごとの
避難行動計画



避難場所設置
(防災公園等)



河川整備
(大河川)



排水ポンプ
整備



土地利用規制



河川整備
(中小河川)



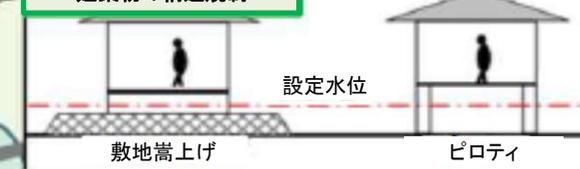
既存の住宅・施設の
移転



宅地嵩上げ



建築物の構造規制



宅地の盛土対策



- 施設整備(ハード)
- 警戒避難体制(ソフト)
- 土地利用・建築対策
- 市街化調整区域
- 市街化区域
- 洪水浸水想定区域 等

県道熊本高森線4車線化（都市計画道路益城中央線外1線）

事業目的

- 県道熊本高森線は、都市の骨格を形成する道路であるが、恒常的に渋滞が発生
- 歩道未整備又は幅員狭小など、歩行者や自転車が安全に通行できない状況
- 緊急輸送道路であるが、平成28年熊本地震により沿線家屋等が倒壊し、道路を塞いだため、避難や支援、復旧等活动に支障

都市計画道路益城中央線の整備により、
「交通の円滑化」「安全な歩行空間の確保」「防災機能の向上」
 を図る。



県道の交通混雑状況



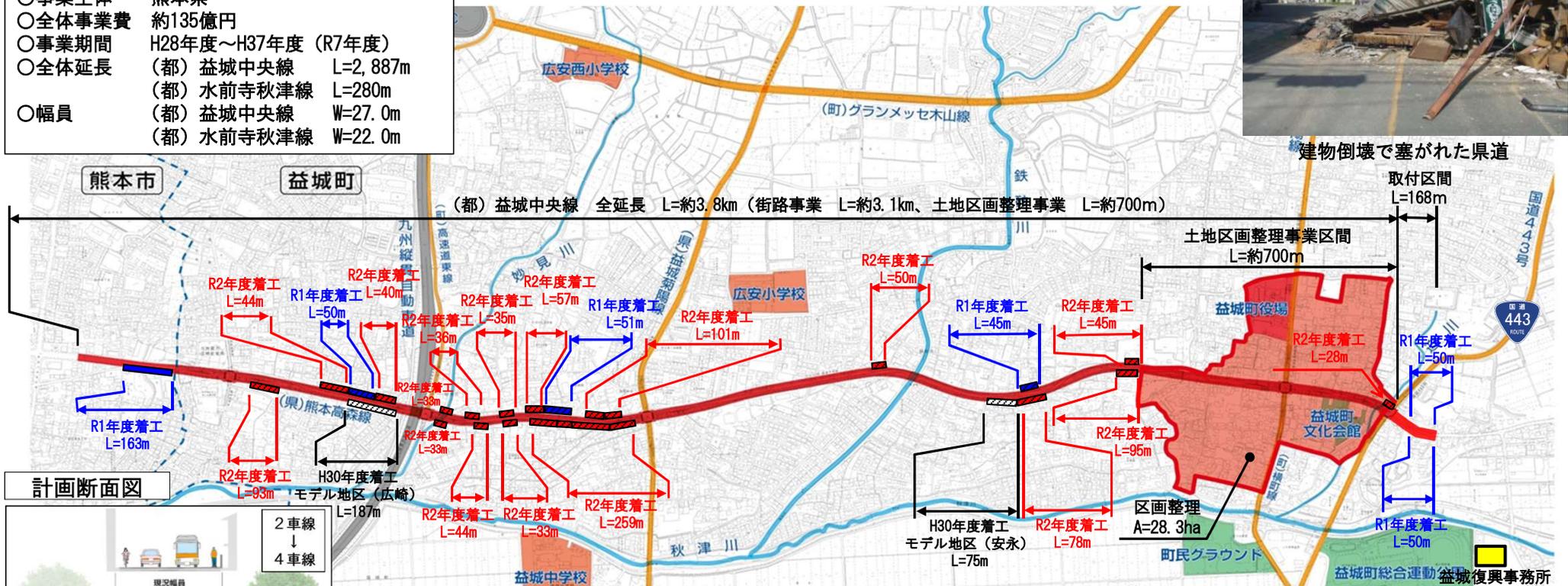
狭い歩道の状況



建物倒壊で塞がれた県道

事業概要

- 事業主体 熊本県
- 全体事業費 約135億円
- 事業期間 H28年度～H37年度（R7年度）
- 全体延長 (都) 益城中央線 L=2,887m
(都) 水前寺秋津線 L=280m
- 幅員 (都) 益城中央線 W=27.0m
(都) 水前寺秋津線 W=22.0m



用地買収進捗状況 (R2. 11. 30時点)

地権者数	278名
契約者数	226名
契約率	81.3%

工事進捗状況 (R2. 11. 30時点)

上り線：工事中	L=1,110m
下り線：工事中	L=665m
(総延長)	L=1,775m (うち供用L=705m)

熊本大学まじろラボからの「益城中央線に対する12の提言」を受け、道路設計への反映